

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
人と動物のたんじょう / 理解シート

へそをいじると、おなかがいたくなるのはなぜなの



へその中は皮がうすく、皮の下にいたみを感じる^{しんけい}神経
がたくさんきているので、いたくなりやすいんだよ。

へそは、へそのおがとれたあと

へそは、イヌやネコ、人間など、赤ちゃんで生まれて乳^{ちち}を飲んで育つ動物(ほ乳^{にゅう}動物^{どうぶつ})には、必ずあります。なぜかという、へそは、へそのおのとれたあとだからです。

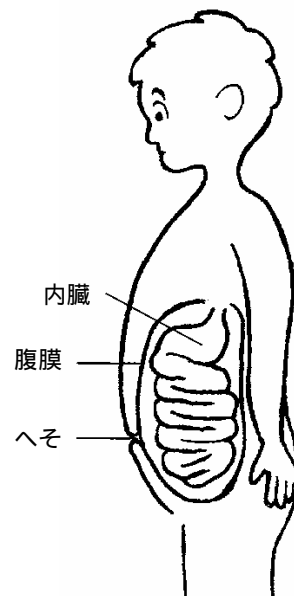
赤ちゃんは、お母さんの体内にいるとき、へそのおを通して、必要な^{えいよう}栄養や^{さんそ}酸素ももらったり、体内にたまっていたら運ばない物を運び出してもらったりしています。へそのおは、なくてはならない大切なものです。

赤ちゃんが生まれ出たあとは、もうへそのおは必要なくなるため、出産後しばらくすると、自然にとれて落ちてしまいます。へそのおに流れていた血管の先も、ちぢんでしまい、うすい皮におおわれてしまいます。

へそは、すぐ^{ふくまく}腹膜につながっている

図のように、へその中は、うすい皮の下に、すぐ、腸などの内臓^{ないぞう}をつつんでいる腹膜がつながっています。そして、腹膜には、いたさを感じる神経がたくさん集まっています。

そのため、へそのごま(へそのくぼみにたまった、あかやごみ)をほじったり、へその中をいじると、いたみの神経にふれてしまって、おなかがいたくなりやすいのです。



へその下は、腹膜